

鹿児島国際大学 事業評価シート①(取組項目別)

【自己評価】

[平成26年度]

1. 取組項目	海外インターンシップの発展・充実				
2. 取組内容	(1) 海外インターンシップの実施(中国、台湾、シンガポール) (2) 現地企業の開拓・調査(中国、台湾、シンガポール) (3) インターンシップ成果報告会の開催				
3. 成果と課題	2. 取組内容を踏まえ、該当年度の成果と次年度への展望(課題・改善策等)を記入  (1) 海外インターンシップは昨年度(平成25年度)に引き続き、中国・大連市の受入企業7社へ10名、台湾・台北市の受入企業3社へ5名(企業講義研修1社含む)、今年度新たに始めたシンガポールの受入企業11社へ11名(企業講義研修6社含む)合計26名の学生が参加した(目標参加者数30名:目標値達成率87%)。 【インターンシップ期間 中国:8月24日～9月6日、台湾:8月31日～9月14日、シンガポール:9月1日～9月14日】 学部・新入生オリエンテーション内で複数回学生募集を行い、事前研修は語学学習、企業研究リサーチ、企業からの課題取組み等の指導、ビジネスマナー講座の受講、事後学習は体験報告書作成・発表用スライド作成指導、事後面談等を実施した。 (2) 受入企業開拓・実施前打合せ・宿泊先調査、インターンシップ先巡回、学生指導等(教職員・TA)のため下記の通り海外出張を実施した。 中国(2回:6月10日～6月13日、8月24日～9月6日) 台湾(2回:6月5日～6月8日、8月31日～9月9日) シンガポール(2回:6月25日～6月28日、9月1日～9月14日) また、産学連携事業として台湾受入企業との打ち合せに鹿児島相互信用金庫職員に参加協力いただき、連携事業の充実・強化にあたった。 (3) インターンシップ成果報告会「自律的職業人育成の取り組みと成果」を開催。 日時:平成26年10月29日(水)(於)鹿児島サンロイヤルホテル 平成24年度文部科学省採択事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の「総仕上げ」の年度として、これまでの取組みについての成果報告を目的とし開催。基調講演「大学におけるグローバル人材育成の現状と新しい動き」をはじめ、学生発表、パネルディスカッションを通して、今後のインターンシップのあり方について再認識し、考える良い機会となった。				
評点	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理由	中国・台湾に加え、平成26年度はシンガポールでのインターンシップを実施でき、参加学生も昨年度(平成25年度)の19名から26名と増えた。 中国・大連市では、学生の要望にも応えるプログラムとして1週間及び2週間の就業体験に係る現地企業開拓・調査を実施し、学生の意識向上として企業からの課題提供や宿泊先を検分した。台湾・台北市では学生による鹿児島物産展の打合せを行うも、物流事情、コスト、稼働率等の問題により企業研修へ変更した経緯もあったが、実施に向けて準備した作業量の見積りや段取りなど把握できたことは大きな学びであった。これらのプログラムを取組の課題として捉え、今後の展望として実施に繋げていく。シンガポールでは、現地鹿児島県人会の全面的バックアップを受け、大手日系企業での「海外で働く」をテーマとしたオムニバス形式のレクチャーを受けるプログラムを設定・実施。また、PBL型(課題解決型)インターンシップとなるよう受入企業との綿密な連絡調整及びプログラムの工夫がなされ、国際化・グローバル化を実質化するための企業・開拓・調査を実施したと言えるだろう。 これらのことは、学生の成長(グローバルな見方ができるようになった。外国語等を学ぶ意欲を起こした。異文化の理解が進んだ等。)、及び3ヶ国での開催で海外での外部教育環境の整備に成果があったと考えられる。				

【外部評価委員会評価】

評点	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理由	<p>&lt;竹内 勝徳委員長&gt; ・今年度より、中国、韓国に加え、シンガポールでもインターンシップを実施することになった。アジアのビジネスハブであるこの都市をインターンシップ先として選択した意義は大きいと思われる。参加学生数も他の2国を凌ぐ11名であり、合計でも26名となっており、平成25年度の19名を大きく更新した。受け入れ企業も電力、建設、飲食、自治体系などかなりの職種をカバーしている。海外インターンシップ自体の内容の改善という点では高く評価できる。 ・海外インターンシップの事前学習は授業科目の中に含まれた形で入念に行われ、事後学習は報告会の形で実施されている。全体として、統一的なカリキュラム構成の中でキャリアビジョン、インターンシップ、就活という流れを強調しており、学習段階が学生によく見える形で提供されているという印象を受けた。 ・前回の外部評価では、海外インターンシップの事後評価の中において、受け入れ企業や参加学生による「話す」「アイデア・提案力」の評点が非常に低いという点を指摘したが、その傾向は今年度さらに強まっていた。しかし、大学側としては、これはむしろ教育課題が明確化されたということであると解釈されていた。この点はポジティブに捉えていいと考える。今後、この教育課題を全学的な体制で克服するよう力強く前進してほしい。</p> <p>&lt;稲葉 直寿委員&gt; ・難しい現地企業の受入開拓・実行に発展的進化が見られるのは十分評価できる。併せ、敬意を表します。 参加学生も増加し、グローバル化の時代に即応した学生の意欲度も感じられ十分評価できる。 なお、参加する学生へのコーチング出来る人材欲しいと感じるし、日本へ来ている外国留学生との交流の中で、事前準備知識(語学・国柄等)を学び、スムーズな生活が出来ることも必要かと思えます。(既に行っていればお許しください)</p> <p>&lt;岩元 修士委員&gt; ・あらたに英語圏のシンガポールを対象国に加え、内容の充実を図り、ノウハウの更なる蓄積に取り組んだ。 ・年々参加する学生数の増加がはかられ、学内における意識の向上がみられる。 ・インターンシップを経験に卒業生で実際に海外の企業への就職が見られたことは大いに評価すべきである。</p>				

鹿児島国際大学 事業評価シート①(取組項目別)

【自己評価】

[平成26年度]

1. 取組項目	国内インターンシップの発展・充実				
2. 取組内容	(1)国内インターンシップの実施(3日間社長のカバン持ち体験、鹿児島県インターンシップ、本学独自インターンシップ、長期実践型インターンシップ) (2)県内企業の開拓				
3. 成果と課題	2. 取組内容を踏まえ、該当年度の成果と次年度への展望(課題・改善策等)を記入  (1) 国内インターンシップ(3日間社長のカバン持ち体験、鹿児島県インターンシップ、本学独自インターンシップ)を8月～2月に実施した。 ・「3日間社長のカバン持ち体験」は受入企業26社へ28名の学生が参加。連携先の鹿児島相互信用金庫にて2日間の事前研修後、金庫取引先企業での企業研修を行った。事後研修の一環として行っている成果報告会も本事業の総仕上げとして、これまでの産学連携の取組みについて「自律的職業人育成の取り組みと成果」と題し、成果報告会を開催(10月29日)。 ・「鹿児島県インターンシップ」は、受入企業10社へ25名の学生が参加。学内にてビジネスマナー(事前研修)受講後、企業研修を行った。県内の機関で構成する「インターンシップ推進連絡会」との連携事業で、参加した学生は企業理解の深化や他大学学生との交流が図れた。学生はグループワーク等を通してコミュニケーション能力の大切さや今後の課題について、実感することが出来たようだ。 ・「本学独自開拓インターンシップ」は17社へ29名の学生が参加。学内にてビジネスマナー(事前研修)受講後、1週間～約3週間の企業研修を行った。本学と鹿児島県、鹿児島市、鹿児島商工会議所、経済団体等の産業界との連携による紹介や本学独自開拓先での研修にて、学生は企業で働く厳しさや意義、職業観の育成や自分自身を見つめ直す機会となった。  (2) 今年度(平成26年度)は公的機関や金融機関でのインターンシップ希望学生が多く、そのための開拓・マッチング作業も担当教員や地元産業界と連携をとりながら実施した。また、産学官連携による行政機関、経済団体、企業等の協力、教職員の人的ネットワークにより、受入企業が増加した。大学と企業等との相互理解を前提とした、より教育効果の高い取組みを推進できた。				
評点	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
理由	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価  上記の通り、「3日間社長のカバン持ち体験」28名、「鹿児島県インターンシップ」25名、「本学独自開拓インターンシップ」29名、計82名が国内インターンシップに参加した。今年度(平成26年度)は、研修地の拡大が見られ、霧島市や日置市、薩摩川内市、出水市といった市街地エリアの他にも水俣市での研修が行われた。このことは、企業と地域の繋がり的重要性を学修している学生にとって地域貢献への意識の向上が図れたのではないだろうか。 「長期実践型インターンシップ」に関しては、オムニバス形式講義「地域創生」の1コマ等を使いながら長期インターンシップの周知・広報活動は行われているものの、積極的な発展はみられなかった。他企業研修とは違い「長期期間」であることに対する学生の不安や躊躇がまだまだ見られるようである。この点においては今後の課題とし、さらなる「長期実践型インターンシップ」への相互理解や連携が必要であると考え。今後インターンシップを継続し学生にとって充実したものになるためには、行政機関や経済団体、企業等の協力の連携は欠かせず、今後の事業実施に向けて今年度も人的ネットワークの強化拡充が出来た、という点については評価できる。				

【外部評価委員会評価】

評点	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
理由	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価  <竹内 勝徳委員長> ・今年度は、3日間社長のカバン持ち体験、鹿児島県インターンシップ、本学独自開拓インターンシップの3分野により53社の企業を集め、82名の学生を派遣している。昨年度の96名から減少したとはいえ、海外インターンシップでの健闘を考えるとネガティブに捉える必要はない。昨年度に比べると、研修エリアが霧島市、薩摩川内市、出水市などに拡大していることも大きな前進であると考えられる。 ・特筆すべきこととして、本学は今年度、鹿児島相互信用金庫、阿久根市、鹿児島市とインターンシップや地域活性化を行うための協定書を交わしている。これは国内インターンシップのみならず、地域連携教育を安定的に実施していくうえで、大きな効力を持つ。 ・国内インターンシップにおいても、受け入れ先開拓、インターンシップ・フェア、事前指導、事後指導(報告会等)、そして事後評価アンケートが一つの統一的な制度としてうまく機能している。これも本プログラムを継続するうえで大きな強みとなると考えられる。  <稲葉 直寿委員> ・4つの形態を擁するインターンシップでも年次、深化・伸化・進化しているのは評価できる。 その要因のひとつは、情報開示、参加者アナウンスメントが学生に参加意欲を醸し出している。更に実効性を高め、就活へのステップ必須事項として、学生の勉学に役立つことを希望する。そして、推進の中で次の学生に繋がる成果発表等を工夫し、企画面に“楽しみ”“やりがい”を醸成する面がほしい。  <岩元 修士委員> ・参加人数、インターンシップのバリエーション共にこれ以上はないという程充実しており評価できる。 ・更に継続して内容充実を図っていただきたい。				

鹿児島国際大学 事業評価シート①(取組項目別)

【自己評価】

[平成26年度]

1. 取組項目	産業界と連携したフィールドワークの展開				
2. 取組内容	(1)経済団体・金融機関・企業等との連携の強化に努める (2)イベントの開催、合同報告会の実施等を行う				
3. 成果と課題	2. 取組内容を踏まえ、該当年度の成果と次年度への展望(課題・改善策等)を記入  (1) 今年度(平成26年度)は、以下の通り産学官連携協定を締結した。 ・鹿児島相互信用金庫 産学連携に関する基本協定締結(7月19日:阿久根市) ・阿久根市・鹿児島相互信用金庫 阿久根市地域活性化共同事業に関する覚書の締結(7月19日:阿久根市) ・鹿児島市との包括連携協定(8月27日:鹿児島市)  また、海外インターンシップ実施においては、台湾受入企業との打ち合せに鹿児島相互信用金庫職員に参加協力いただき、連携事業の充実・強化にあたった。  (2) 今年度(平成26年度)の主な取組みは以下の通りである。 ・鹿児島相互信用金庫と連携したインターンシップ成果報告会として、10月29日鹿児島サンロイヤルホテルにてインターンシップ成果報告会「自律的職業人育成の取り組みと成果」を開催。基調講演「大学におけるグローバル人材育成の現状と新しい動き」をはじめ、学生発表(3日間社長のカバン持ち体験、本学独自開拓インターンシップ、海外インターンシップ)、パネルディスカッションを通して、今後のインターンシップのあり方について考える良い機会となった。 ・地域活性化共同事業(阿久根市・鹿児島相互信用金庫)の第1弾として、阿久根市活性化のための研究調査活動を学生等は8月より実施。これらの成果をまとめ、3月21日には成果報告会を開催する。 ・リポビタンDプロモーション企画(大正製薬、博報堂、鹿児島読売テレビ等との連携)を11月より実施。商品を「若い世代の方に、今まで以上に飲んでいただくためには」という課題を解決するため様々なプロモーション活動(大学食堂でのサンプリング活動を行う等)をした。				
評点	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理由	<p>これまでも地元産業界の協力を得ながら「地域貢献・社会貢献」という目的に沿ったフィールドワーク活動が行われており、地域の活性化や学生のキャリア形成に繋がっていた。今回産学官の連携協定を締結したことにより、知的資源・人的資源の活用といった、相互がより一層の連携を図っていく仕組みが整えられたことは大きな成果ではないかと考える(充実体制の整備が図れた)。</p> <p>また、外部の企業・団体と連携することにより学生が実社会との繋がりを感じ、学ぶ機会となった。学生の活動の幅を広げるだけでなく、自ら考える機会、そのことを人に伝えるといった機会を提供できたのではないだろうか。</p> <p>阿久根市地域活性化共同事業に続き、個別の産学官連携協定に基づいた具体的な取組を今後進めることになる。</p>				

【外部評価委員会評価】

評点	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理由	<p>&lt;竹内 勝徳委員長&gt; ・主として阿久根市の主要観光地、商店街視察や、来訪者向けアンケート、事業所ヒアリングなどのフィールドワークについて報告されていたが、そこには地域の学習リソースとしての価値が詰まっていると感じた。学生にとって身近な課題解決を体験できるものであり、教育面での可能性は大きい。ただ、こうした活動を全学的な取組として拡張していくことが必要であると思われる。 ・阿久根市や鹿児島市との基本協定は、地域活性化と密接に関わるものであり、フィールドワークにおいて最も効力を発揮すると思われる。この協定書を実質化する授業科目がもっと多く望まれる。</p> <p>&lt;稲葉 直寿委員&gt; ・学生のキャリア形成に最も役立つ、実践していく、物事をロジカルに体験する産業間の連携と取組みが出来、又、実効性を高めていることは評価できる。 この経験をした学生は、現社会・企業からもその実践力は評価されると思う。 これをどう伸化させ、学生に現場のリアルな状況を体験させ、学生の成長へどう結びつけるか、参加した学生と産業者とのコミュニケーションを通じて学生を熱くし、チャレンジする学生を社会に送り出してほしい願望をもって十分評価できる。</p> <p>&lt;岩元 修士委員&gt; ・産学官連携協定を結んだ先との取り組みを実りあるものにすることが求められる。 ・阿久根市活性化の共同事業に見られる、地域に入った課題解決型の活動を各地域に広げて欲しい。</p>				

鹿児島国際大学 事業評価シート①(取組項目別)

【自己評価】

[平成26年度]

1. 取組項目	Webキャリア・ポートフォリオによる記録と振り返り				
2. 取組内容	学生たちが取組んだ内容と自己評価をWebキャリア・ポートフォリオに記録させる。これを利用して各自がPDCAサイクルを回すことによって、社会的・職業的に自立した、産業界のニーズに対応した人材を目指す。また、Webキャリア・ポートフォリオを利用して教育効果を評価・確認する。				
3. 成果と課題	<p>2. 取組内容を踏まえ、該当年度の成果と次年度への展望(課題・改善策等)を記入</p> <p>平成26年4月～12月現在:WCPログイン達成率93.61%であった。また、学生記録情報登録:登録率80%(登録108人中、報告書完了86名につき80%と判定)と数値目標に到達できた。</p> <p>新入生ゼミナールでの1コマを利用して利用説明・案内を実施。内容は一連の流れを説明し、実際にパソコンを用いてPDCAチェックシート、就職活動自己評価、学生記録情報の3項目を入力することで操作方法を指導した。利用説明・案内は5回10クラス(国際文化学科2回7クラス、社会福祉学科1回1クラス、経営学科2回2クラス)で実施した。</p> <p>また、インターンシップ参加学生を中心にポートフォリオの活用について案内・説明も実施した。参加学生に対して、学生記録情報の利用(書類のダウンロードから日々の活動日誌、報告書のへ記録等)をはじめ、就職活動自己評価への入力を事前学習の講義中やビジネスマナー講座時、インターンシップ終了後に活用するよう促した。</p> <p>国内はもちろん、海外で就業体験中の学生からの活動記録を基に、科目担当教員・職員等がコメントを記録することで学生と教職員等との情報交換となり、学生の現況把握や精神面のフォローが図れた。これらのやり取りや事後学習でもある報告書の添削・指導、アンケート等で、学生等の就業体験での出来事や感じたことを含めインターンシップに向けて設定した目標への接近度や達成度が確認できた。</p> <p>全学的には、自主活動団体やサークル活動の告知や報告にて利用する学生への案内や、学生からの利用に関する問い合わせの際にも随時、サポートを行った。</p> <p>学生等がWebキャリア・ポートフォリオ上の記録から「気づき」「芽生え(自信など)」を読み取り次の行動設計に活かせるよう、今後もWebキャリア・ポートフォリオの活用、利用率の向上へ向けた学生・教職員への利用促進の周知が必要である。</p>				
評点	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理由	<p>学生が記録の蓄積と教職員からのサポートから気づきと自信を醸成し、目標達成度の確認や次の目標へのチャレンジと繋げていくといった自己実現型のキャリア形成へ促せたと思う。その観点から、本取組みを側面から支えるサブシステムとして評価できる。ただ、平成22年度文部科学省支援事業の導入当初からの理念である「全教職員で学生支援に関する情報を共有し、きめ細かなサポートをする」において、このWebキャリア・ポートフォリオは教務システムと連動しており、教職員は情報を共有可能だが、なかなか全教職員に浸透していないのが現状である。また、学生においても全学年へ浸透しているとは言い難い。なぜなら、インターンシップ実施期間の7月後半～8月の利用は、ほぼ就業体験参加者のみ(他の月と比較すると1,000件を下回り最低となっている)であり、それ以外の学生はほとんど活用していない。できればこの時期にこそ、PDCAチェックシートを活用し、前期の「振り返り作業」を行って後期に備えて欲しい。この時期の活用促進についての方策として、入力案内の連絡メールを随時発信して意識啓発を促すことが必要であると考えます。</p>				

【外部評価委員会評価】

評点	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理由	<p>&lt;竹内 勝徳委員長&gt; ・電子ポートフォリオの活用例としては非常に高く評価できる。ログイン率93.61パーセントは驚くべき数字であるが、これを学生からみてもっと実質的な利用実態へと結びつけることが課題となるだろう。現在、大学教育の現場では、学生の技能向上を数値で証明することが求められる。それを成し遂げるためにはこのようなポートフォリオは有効な手段の一つであると考えられる。学生の利用実態の改善、入力データの分析、さらにはそれをPDCAサイクルに結びつけることが必須である。本学のインターンシップは非常に充実した取組であるが、学生の自己評価において教育課題も明確化されている。それをこの電子ポートフォリオのデータ分析と絡めて克服することができれば素晴らしいと考える。</p> <p>&lt;稲葉 直寿委員&gt; ・学生・教授・大学の三位一体となった取組みのサブシステムを構築して、その成果・取組みを確認しながら進んでいることと、情報を共有しながらより実効性を高めていることは評価できる。 浸透・活動に問題点・課題を捉え、サブシステムの高い目標に向かっていくことも評価できる。</p> <p>&lt;岩元 修士委員&gt; ・学内への啓発が必要である。</p>				

鹿児島国際大学 事業評価シート②(全体評価)

【自己評価】

[平成26年度]

1. 取組の経緯とこれまでの実績	<p>鹿児島国際大学は、平成22年度以降「大学生の就業力育成支援事業」として「自分の言葉で表現できる学生の育成」を目的に就業力育成に取組んできた。この目的を達成するために、全学的な教育改革(「オムニバス講義」「フィールドワーク」「演習」の3科目群の再編・改革)を行い、学部・学科を中心に大学として「自分の言葉で表現できる」学生の育成に焦点をあてた段階的かつ連鎖的なプログラムを構築する事に取組み、カリキュラムに反映させた。</p> <p>これらの取組みを踏まえ、平成24年度より「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」として取組みを開始。九州・沖縄・山口地域22の大学と連携し「地域社会に活力(地域力)をもたらす、主体的に考える力を持った自律的職業人」の育成・輩出を目標に3グループのテーマに分かれて取組んできた。うち、本学はインターンシップの高度化を目指し、本学を含めた9校でインターンシップグループを組織。これまでのグループ校での取組みから得られた知見と課題を共有し、産業界の意見を踏まえながら効果的かつ持続可能なインターンシップ実施のためのモデルプログラム(高度化モデル)の開発・作成を行った。インターンシップグループの年次計画としては①平成24年度は各大学の事例の共有化と高度なインターンシッププログラム開発、②平成25年度は開発プログラムの9大学での実施、③平成26年度は実施ノウハウの集約化、インターンシップ継続のための仕組み作りを行う。なお、達成目標として、インターンシップ参加学生数の増加率を25年度/23年度=120%と設定している。</p> <p>なお、鹿児島国際大学は「大学生の就業力育成支援事業」での成果を基に、本事業の趣旨・目的を踏まえ新たな取組みとして海外/国内インターンシップをさらに発展・充実させる。</p>					
2. 取組内容	<p>事業の取組項目を箇条書で記入</p> <p>(1) 海外インターンシップの発展・充実 ①海外インターンシップの実施(中国、台湾、シンガポール) ②現地企業の開拓・調査(中国、台湾、シンガポール) ③シンポジウムの開催</p> <p>(2) 国内インターンシップの発展・充実 ①国内インターンシップの実施 ②県内企業の開拓</p> <p>(3) 産業界と連携したフィールドワークの展開 ①経済団体・金融機関・企業等との連携強化 ②イベント開催、合同報告会の実施等</p> <p>(4) Webキャリア・ポートフォリオの活用 ①利用サポート(学生・教員・職員)</p> <p>その他 取組み全体に係る内容として ①委員会の開催(プロジェクト委員会、インターンシップ委員会) ②九州・沖縄会議、インターンシップグループ会議への出席</p>					
3. 実施体制・運営組織	<p>別紙「運営組織・実施体制図(年次報告書:18P~20P)」参照</p>					
4. 成果と課題	<p>上記1~3を踏まえ、該当年度の成果と次年度への展望(課題・改善策等)を記入</p> <p>取組内容の成果と課題については項目別評価シートのとおりである。その他、取組み全体に係る内容の成果として</p> <p>① 委員会の開催、実施体制の構築と整備 「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト委員会(通称:プロジェクト委員会)」:本事業の承認機関とし、学長をはじめ学内事務部局の長を中心としたメンバー構成として、年度内に2回開催した。また、インターンシップ委員会は国内・海外インターンシップの科目担当者に加え、全学的な取り組みとなるよう福祉社会学部教員、入試室職員を含めたメンバー構成とし、新体制の構築と整備を図った。委員会ではシラバスの作成や事前学習の内容、研修監督引率等実務的な議題について検討し、年度内に9回開催した。</p> <p>② 九州・沖縄会議、インターンシップグループ会議への参加 本学の所属しているインターンシップグループは、仕上げの年度にあたる本年度は「モデルプログラムの作成」を掲げ、これまでの取組みから得られた知見と課題を共有し、産業界の意見を踏まえ、効果的かつ継続可能なインターンシップ実施のためのプログラムを作成。取組みテーマの成果として、本学はインターンシップ高度化のための推進5項目の1つである「海外インターンシップの普及」をメインとして取り組み、纏め、事業の報告書作成が行われた。今後も九州・沖縄及び山口地域大学で連携し、各大学の取組についての情報を共有、インターンシップの取組拡大を進めていく。</p>					
評点	<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる</td> <td><input type="checkbox"/> 3. どちらでもない</td> <td><input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない</td> <td><input type="checkbox"/> 1.まったく評価できない</td> </tr> </table> <p>取組内容について、成果をあげているかという観点から評価</p>	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1.まったく評価できない
<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1.まったく評価できない		
理由	<p>3つの取組み「海外インターンシップ」「国内インターンシップ」「フィールドワーク」については個別に評価した通り、成果を上げることができた。特に、海外インターンシップについては、参加学生数の増加やメニューの充実化(研修期間の長期化やPBL型の導入等)により学生の満足度が高く、インターンシップグループ会議の中でも先進的な取組み、実施モデルとしても取り上げられた。また、国内インターンシップやフィールドワークについては、地元産業界との連携を深め、産学官協定の締結も実施。学生が学修するための環境整備が図れた。</p> <p>組織的には、インターンシップ委員会で審議し、プロジェクト室を事務局として委員、その他の教職員の協力のもと運営を行ってきた。少ない人数でこれだけの事業を完遂できたことは十分評価できる。しかし、Webキャリア・ポートフォリオの全学的利用がまだ十分でないこと、産業界と連携したフィールドワークの展開は緒に就いたばかりであることを考慮して全体の評価は4とした。</p>					

【外部評価委員会評価】

評点	<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる</td> <td><input type="checkbox"/> 3. どちらでもない</td> <td><input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない</td> <td><input type="checkbox"/> 1.まったく評価できない</td> </tr> </table> <p>取組内容について、成果をあげているかという観点から評価</p>	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1.まったく評価できない
<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1.まったく評価できない		
理由	<p>&lt;竹内 勝徳委員長&gt; ・本プロジェクトは「自律的職業人」の育成をめざして、海外インターンシップ、国内インターンシップ、フィールドワーク、ウェブ・キャリア・ポートフォリオの4本の柱を軸として事業を展開してきた。特に、海外・国内インターンシップについては内容、形態、実施体制、事後評価、全てにおいて成功しており、非常に高く評価できる。統一的なカリキュラム構成、開拓したインターンシップ先企業の質や量、鹿児島相互信用金庫等との協定書、授業評価・自己評価の分析データなど、事業推進期間を終了した後本プロジェクトを継続できる環境がしっかりと構築されている。来年度以降も本プロジェクトを継続するということが確認できた。あとは、インターンシップに参加した学生の弱点克服やフィールドワーク型授業科目の整備、ウェブ・キャリア・ポートフォリオのより実質的な利用等に向けて、さらなる全学的な取組が望まれる。</p> <p>&lt;稲葉 直寿委員&gt; ・4つの大きな取組みを委員会機能を軸に移働させ、成果を求めている。 質的にも充実度に向けて取組んでいる。最も、PDCAサイクルを基に検証し、進化・変化しているのは評価できる。 又、他大学との連携の中で情報を共有しながらより実効性を高めているのも評価できる。</p> <p>&lt;岩元 修士委員&gt; ・取組み毎に濃淡はあるが、インターンシップの高度化という目標に対しては質・量ともに大いに評価される。 今回の良き取組みが学内外で更に展開されることを望みます。</p>					